

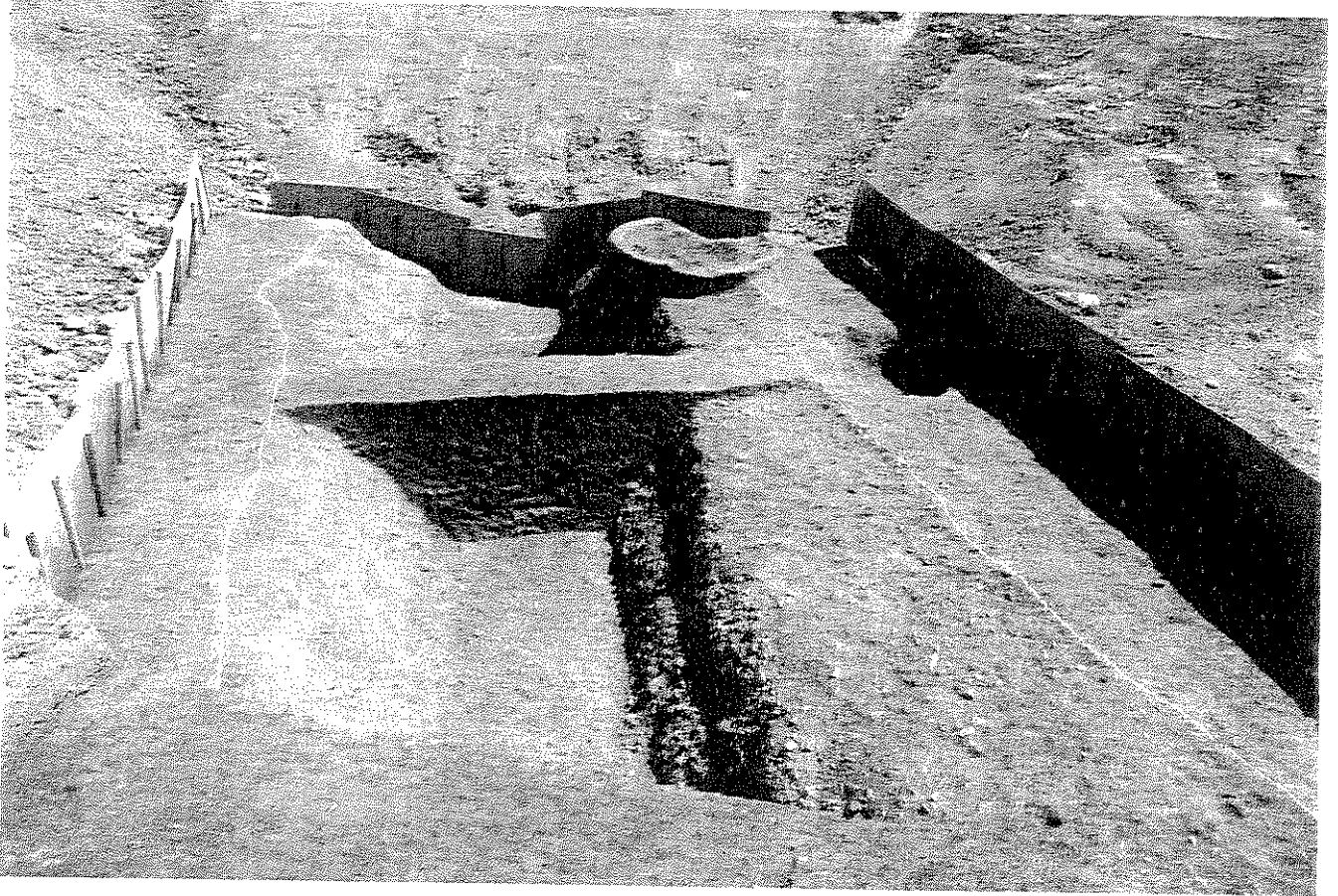
平成25年9月8日(日)現地説明会資料

ありおかげせき

いたみごうちょう

# 有岡城跡・伊丹郷町遺跡

～第352次調査～



堀1(北より)



伊丹市教育委員会事務局 生涯学習部 社会教育課

〒664-8503 伊丹市千僧1丁目1 TEL. 072-784-8090

ed-syakai@city.itami.lg.jp

有岡城城主 荒木村重

## 遺跡の概要

**伊丹城** 有岡城の前身である「伊丹城」は、鎌倉時代末期から、在地武士の伊丹氏の居城でした。室町時代には、主従関係であった細川家の内紛にかかわり、その影響で伊丹城も攻撃を受けます。永禄11年(1568)、織田信長が足利義昭を奉じて上洛すると、伊丹親興は信長方につき、和田惟政・池田勝正らと共に「摂津三守護」に任じられます。しかし、信長と義昭が対立しはじめると、親興は義昭方に付き、信長に反します。

**荒木村重** その頃、北摂に勢力を伸ばしていた村重は、信長の命によって、天正2年(1574)に伊丹氏を追放し、入城し「有岡城」と改めます。

**有岡城** その構造は、『信長公記』の記述や江戸時代の絵図などから、主郭(本丸)は現在のJR伊丹駅付近で、その西側に侍町、さらに、その西側一帯に町屋(城下町)が広がります。

**惣構** 村重は、有岡城を堀と土塁で取り囲んだ《惣構》の城に大改造したと考えられています。惣構内の構造は、主郭は西側に素掘りの堀と土塁が築かれていました。有岡城の西北側に位置する、現在の「猪名野神社」は、『信長公記』に記された「岸の砦」と考えています。今も神社境内北西部には土塁が残り、土塁の外側に堀を設けていました。南側の調査でも堀の続きを確認しています。

近年の発掘調査の成果から、有岡城の惣構は伊丹城段階には形成され、村重段階に完成したと考えられています。

**堀** 江戸時代に描かれた「文禄伊丹之図」には、侍町と町屋(城下町)の間を、南北に延びる“大溝筋”には堀と土塁が描かれています。第276次調査(平成15年調査、現ニトリ)で、“大溝筋”(=石組排水溝)の直下から、幅6mの堀を検出しました。さらに、町屋(城下町)にも堀が見つかっています。これらの堀は、城を取り囲むように掘られています。

**伊丹郷町** 天正7年(1579)、有岡城は、信長軍に侍町を焼かれ、攻めこまれます。落城後、池田氏が入城しますが、天正11年(1583)に美濃国に転封となり有岡城は廃城になりました。残された城下町は江戸時代以降、酒造業を中心とした在郷町「伊丹郷町」として発展します。

## 調査成果

**堀 01** 調査区中央部を南北方向に延びています。規模は、長さ 38m以上、幅約 3 m、深さ 1.5 m。土層断面の観察から東側より一気に埋め戻されています。有岡城内で見つかる、多くの堀は、侍町から発見され、その方向は、有岡城期の町屋の町割に並行し、有岡城期に掘られた堀跡と考えています。しかし、堀 01 は、この町割に並行しておらず、また、堀 01 の直上で、有岡城期と考える建物 01 を発見したことなどから、有岡城以前の伊丹城期の堀と考えられます。

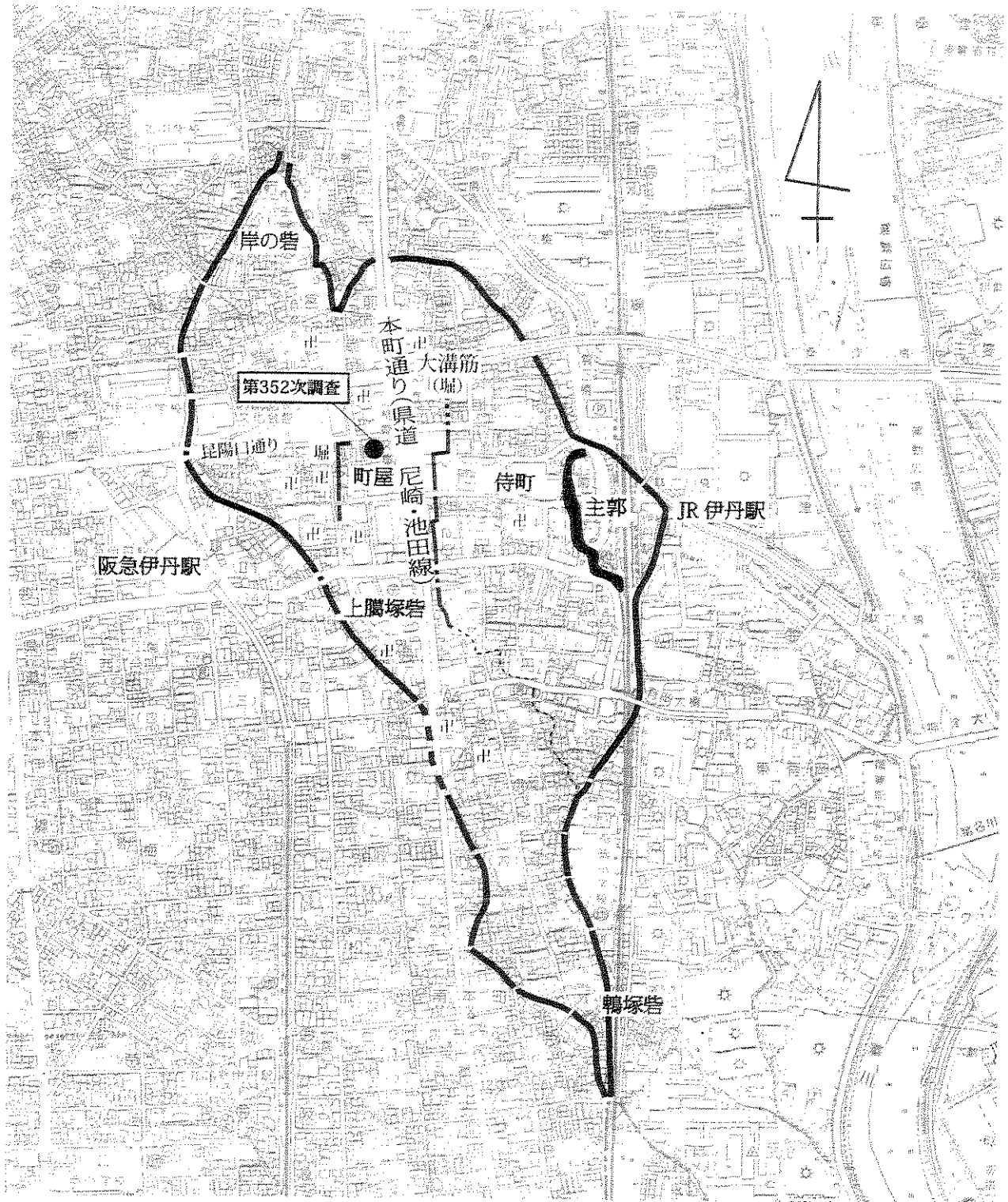
**堀 02** 調査区北壁沿いを東西に延びて検出されました。規模は、長さ 5.7m以上、幅 3.3m以上、深さ約 1mで、東西共に調査区外に延びています。発見時は、堀の方向から有岡城の城下町を包囲する堀跡の続きと考えましたが、方向や形状が異なること、規模が小さいことから堀跡の可能性が低いと考えておりますが、未発掘箇所の調査が進むと解明されると思われれます。

**建物 01** 石仏や五輪塔の地輪などの石造物を建物の礎石に転用し、その上部に粘土を敷き、さらにその上に瓦を載せ基礎としていました。規模は、東西約 16.5m以上、南北約 1.0m以上を測ります。埋められた「堀 01」の上に築かれており、柱の通り（建物の方向）が有岡城の町屋の地割と並行することから、この建物は有岡城期に建てられたと考えています。

**町屋** 江戸時代前期から、通りに面して町屋が建っていたことが、江戸時代に描かれた絵図や文献資料からわかります。調査では、北面する（昆陽道に続く）東西通りや、西面する通りに沿い、江戸時代前期と考える「掘立柱建物」を発見しました。

**酒造遺構** 江戸時代後期の「搾り場」<sup>しぼば</sup>（もろみを搾り、液体（酒）にする作業を行う施設。搾った酒を受ける「垂壺」<sup>たれつぼ</sup>と「男柱」<sup>おとこばしら</sup>が組み合わせ）が発見され、江戸時代後期以降、ここが酒蔵だったことがわかりました。

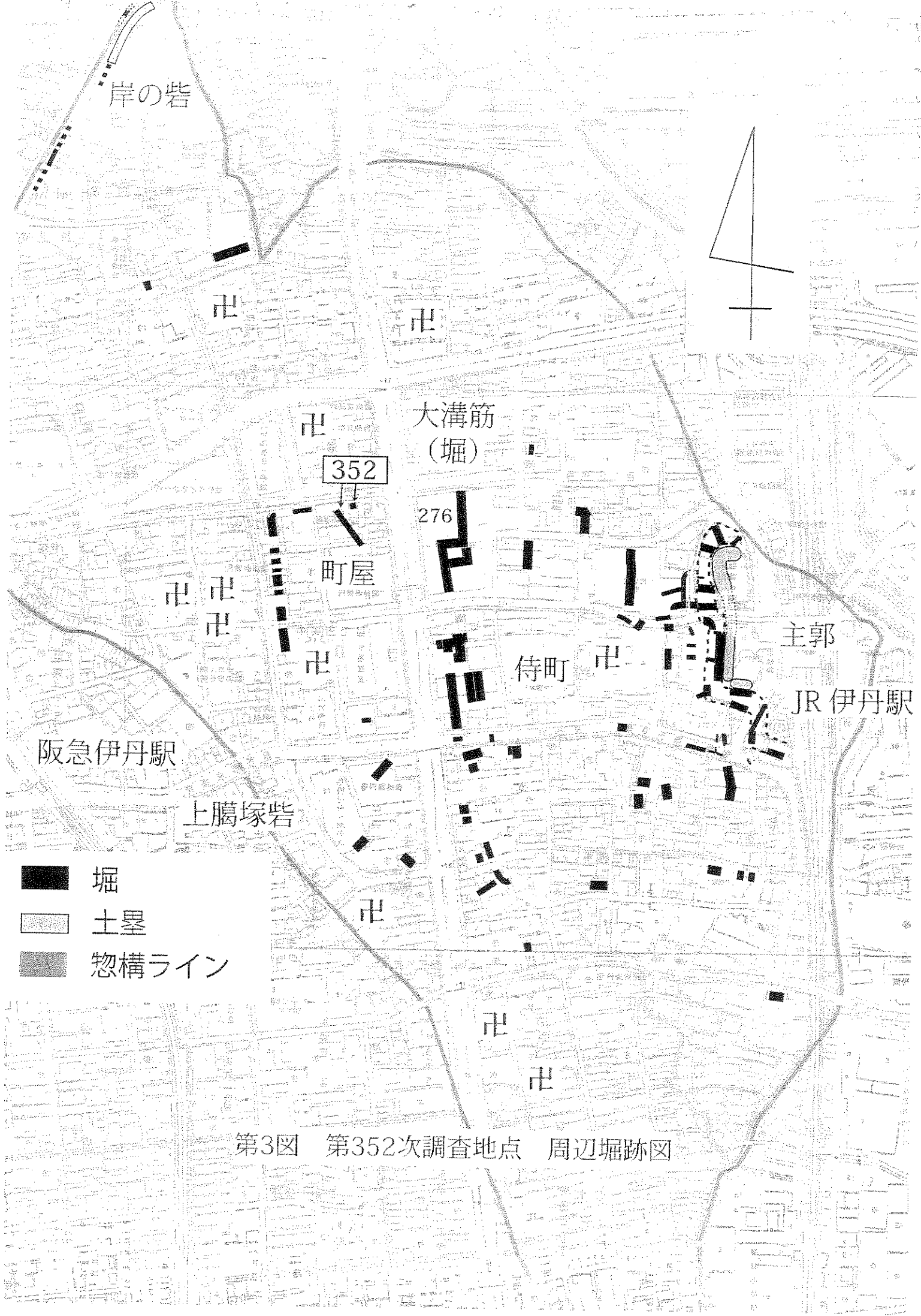
**終わりに** 第 352 次調査で特筆されるのは、伊丹城期と考える堀 01 の発見です。伊丹城期の堀が大溝筋より西側ではじめて発見されたことにより、本地点は伊丹城段階にはすでに防御を必要とする重要な地域であったことを想定させる発見となりました。



第1図 有岡城跡・伊丹郷町遺跡第352調査地点位置図  
 S = 1/10,000



第2図 「文禄伊丹之図」解説図 『伊丹古絵図集成』より



岸の砦

堀

堀

堀

大溝筋  
(堀)

352

276

町屋

堀

堀

堀

侍町

主郭

JR 伊丹駅

阪急伊丹駅

上臈塚砦

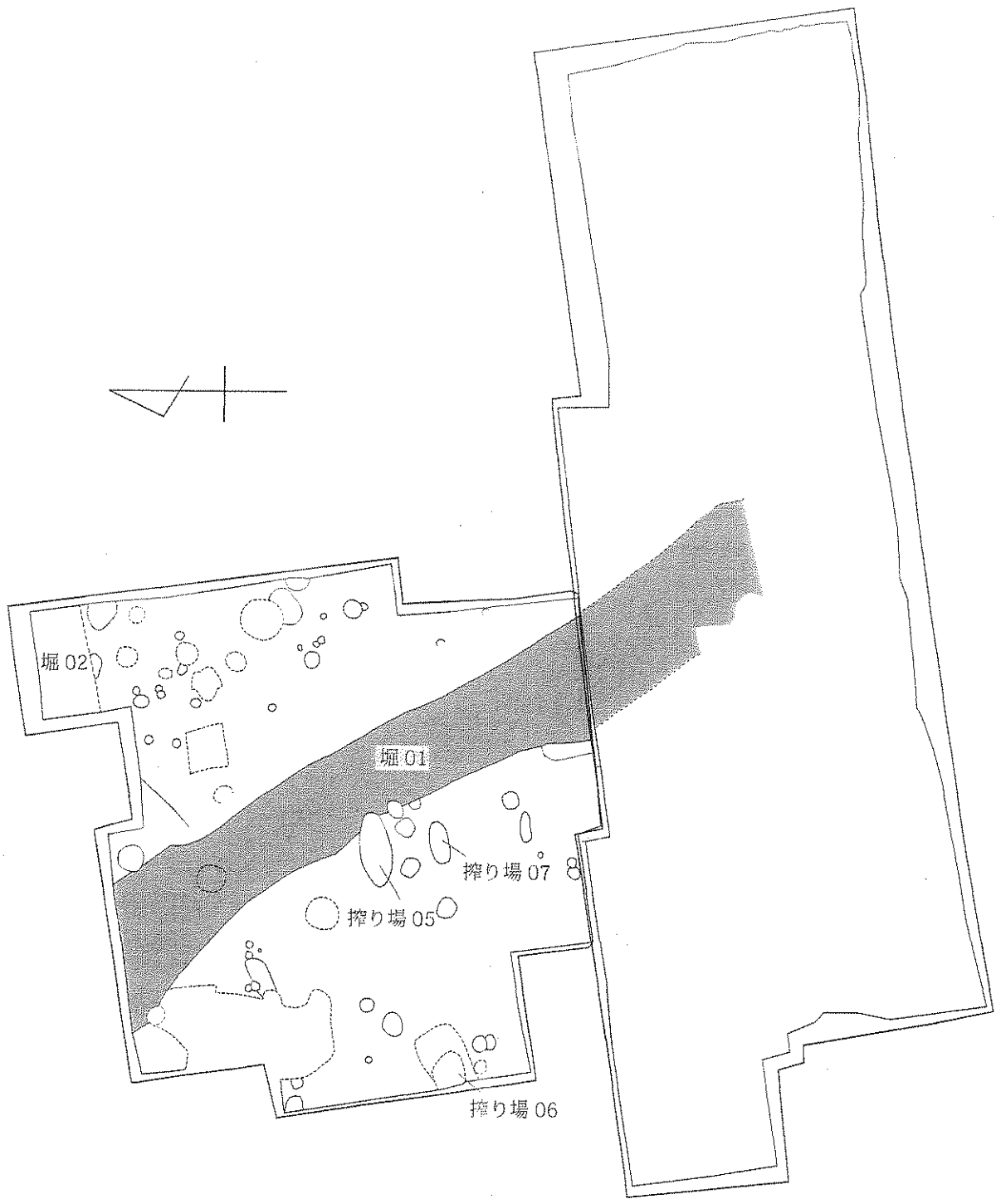
堀

堀

堀

- 堀
- 土塁
- 惣構ライン

第3図 第352次調査地点 周辺堀跡図



第 4 図 第 3 次面平面図 S = 1/300

表1 有岡城跡・伊丹郷町遺跡 主要年表（室町～江戸時代前期）

文和2年	1353	南朝軍の石塔頼房らが、伊丹城を攻撃。森本基長ら防戦する。
宝徳3年	1451	伊丹之親が勝尾寺に禁制を出す。
永正5年	1508	細川高国が兵をおこし、伊丹兵庫助元扶らが呼応して、細川澄元・三好之長を攻める。
永正8年	1511	細川澄元方の赤松義村が伊丹城を攻撃する。
永正17年	1520	細川澄元方の三好之長の攻撃で伊丹城が落城し、伊丹但馬守・野間豊前守の二人、天守にて自刃する。
享祿2年	1529	柳本賢治の3ヵ月にわたる攻撃に伊丹城落城、伊丹大和守元扶ら30余人が自刃する。
享祿3年	1530	晴元方の高島甚九郎、伊丹城に立てこもり、高国方の軍を迎え撃つ。
享祿4年	1531	細川高国が伊丹城を攻めるが落城せず、和談により開城する。
天文2年	1533	一向一揆衆が伊丹城を攻め、堀を埋め始めるが、木沢長政率いる法華衆が救援に駆けつける。
天文18年	1549	三好長慶が包囲攻撃、伊丹親興の善戦により伊丹城落ちず。
天文19年	1550	伊丹親興と三好長慶、尼崎本興寺で和談。長慶、伊丹城包囲を解く。
永祿11年	1568	織田信長が足利義昭を奉じて入京、伊丹親興・和田惟政・池田勝正を摂津三守護とする。
天正元年	1573	信長が義昭を京より追放する。 村重はこの時の忠節を賞され、「摂津守」となる。
天正2年	1574	村重が伊丹氏を破って伊丹城に入城する。
天正5年	1577	ポルトガル人の宣教師ルイス・フロイスが有岡城を訪れ、「壮大にして見事なる城」と賞賛する。
天正6年	1578	村重が信長に背き、有岡城に籠城する。 信長は松井友閑・惟任(明智)光秀・万見重元・羽柴秀吉らを有岡城に派遣したが、慰留に失敗する。 小寺職隆が、小寺孝高(黒田官兵衛)を村重説得のため有岡城に遣わすが、村重により城内に幽閉される。
天正7年	1579	村重が有岡城から尼崎城に入城する。後に花熊城へ移る。 有岡城が落城し、孝高(官兵衛)は家臣栗山善介により助け出される。 村重の妻子ら約700人が京六条河原や尼崎七ツ松で処刑される。
天正8年	1580	信長により摂津国支配を任された池田信輝の嫡子之助が伊丹城城主となる。
天正11年	1583	秀吉により池田信輝父子は摂津より美濃に転封され、伊丹城は廃城となる。
天正17年	1589	秀吉が有馬温泉入湯の途中、魚屋町岡田次郎左衛門の家に宿泊する。
文祿年間	1592～96	伊丹村の町場が15の町で形成される。
元和3年	1617	伊丹村が宿駅に指定される。
寛文元年	1661	伊丹郷町のうち、11村が近衛家領となる。